

透析液清浄化に関する取組

東京都済生会中央病院 臨床工学科¹ 腎臓内科²

○田島直人¹ (タジマ ナホ) 神田洋幸¹ 筑後和也¹ 栗山 哲²

【目的】

2007 年日本透析医学会にて策定された透析液水質基準でき、透析液の清浄化に関して 2010 年より透析液水質確保加算が請求できるようになった。今回我々は、日常の洗浄消毒方法も含めた管理を行い透析液清浄化に取り組んだ。

【方法】

日本透析医学会に準じた方法で、2010 年 4 月より透析用水 (RO 水)、希釈調整後透析液末端コンソール 17 台の生菌数およびエンドトキシン濃度測定を毎月行った。また透析後の洗浄消毒方法を 60 分次亜塩素酸 Na 濃度 1000ppm シングルパス方式から次亜塩素酸 Na 濃度 300ppm 夜間封入および原液タンクも RO 水洗浄から次亜塩素酸 Na 濃度約 100ppm にて夜間封入方法に変更した。

【結果および考察】

透析用水の生菌数は陰性から 0.98 (CFU/ml)、エンドトキシン濃度は 0.001 未満から 0.007 (EU/ml)、同様に透析液生菌数は陰性から 0.81(CFU/ml)、エンドトキシン濃度は 0.001 未満から 0.004(EU/ml)と標準透析液基準値範囲内の結果を得たが、透析液エンドトキシン濃度でコンソール 17 台中 3 台において 0.001 未満を達成出来なかった。

【結語】

今回日常管理も含めた清浄化に取り組む、標準透析液基準値範囲内であった。今後超純粋透析液作成および管理を検討していく。